

**滋賀の強みを活かした農林水産業振興と
魅力ある農山漁村づくり
【重点テーマ5】**

「人」と「地域」が織りなす滋賀の農業・農村活力創造プロジェクト

～人キラリ、農業キラリ、地域キラリ～



農家の減少・高齢化、土地持ち非農家の増加が進む中で、集落機能を維持・強化し、担い手による力強い農業経営の展開、および活力と魅力ある地域づくりを進めるため、「(仮称)地域農業戦略指針 (H26 策定)」を活用し、集落が地域の実情に応じた今後の農業・農村の目指す姿を定め、その実現に向けた活動が行えるよう、農業者、関係者が一体となった取り組みを展開する。

農業・農村の現状と課題
～地域農業・集落の将来を見つめ直す必要性～

背景

- 米価の低迷により、水田農業の担い手の収益性が悪化
- 生産調整など国の農業政策の見直し
- 農家の減少・高齢化、土地持ち非農家の増加により、農業を通じた集落機能が低下
- 農道、水路等の管理など、担い手の負担が大きくなり、地域との連携・協力なしには経営安定・規模拡大が困難
- 集落営農組織では、構成員の参画意識の希薄化

必要性

- 地域の農地の保全
- 農業の持続・発展
- 農村の農を通じた維持・活性化



集落自らが、現状・課題を認識し、今後の目指す姿を描き、集落で合意・実践

県域

サポートセンターの設置・運営

- 民間シンクタンク (プロポ-ザル委託)
- ・ 専門家設置 (相談、現地派遣)
 - ・ リーダー養成講座
 - ・ 地域おこし講座

フォーラム

農業法人未来戦略セミナー
(地域との良好な関係づくり)

対象: 農業法人(個別経営)

集落営農経営高度化
アドバイザー派遣事業
(しがの担い手育成総合事業)

対象: 集落営農組織

相談、要請

助言、専門家派遣、人材育成

地域段階

「(仮称)地域農業戦略指針」を活用した推進

戦略推進会議
(関係者の共通認識と方向付け)

集落リーダーの育成

取り組み集落の普及・拡大

集落での検討・実践(モデルの育成※)

【農業】

- ① 集落営農組織の発展
- ② 集落に支えられた個別経営の展開
- ③ 外部の担い手(農業サービス事業者等)によるサポート

【地域づくり】

地域資源を活用した農村の活性化
(地域特産品の生産、都市農村交流等)

※モデルの育成 ①、②: 各1集落(H27～H28)
③ : 1地域(H27～H29)

集落を舞台に

力強い農業経営の展開

農による地域再生

担い手、小規模農家、地域住民等が支え合い

滋賀のブランド力向上と地産地消の推進

【重点テーマ5】

滋賀・びわ湖ブランド推進事業

滋賀・びわ湖+DESIGNプロジェクトの展開

① 滋賀・びわ湖+DESIGNプロジェクト

ブランディングディレクターのもと、平成26年度のリサーチで浮かび上がった「滋賀の魅力」を、具体的に発信する素材を作成し、イベントやWEB等により、積極的に全国に向けて発信！！



ブランディングディレクター
服部 滋樹

(写真)JR大阪駅での「滋賀・びわ湖ブランド展」におけるトークショー

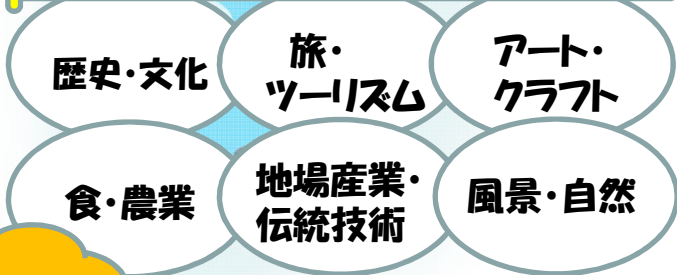


びわ湖はもちろん、その周囲にある陸、そしてそこに暮らす人々を結んでいくことをブランディングの骨子とし、滋賀に存在する魅力の一つひとつを線で結び、面として滋賀をブランディングしていく

② 首都圏「滋賀・びわ湖ブランド」発信拠点整備に向けた期待感醸成

早稲田大学自治体連携講座や、ゆかりの方々・企業等とのネットワークづくりなどにより、新たに整備する首都圏発信拠点のオープンに向けた期待感を醸成。

テーマごとに滋賀の魅力をリサーチ



「滋賀・びわ湖ブランド」を全国に展開するには首都圏での発信が極めて重要！！

(テーマ例) 琵琶湖の周囲で様々なブランドに関わる人々をクローズアップし、結ぶことでブランドを向上

首都圏「滋賀・びわ湖ブランド」発信拠点の整備

- ① 目的
 - 地域ブランド力の向上
 - 滋賀への還元力の向上



- ② コンセプト

“認知度の低い滋賀のブランド化。魅せることで価値を引き出す”

 - デザイン力でむすぶ
 - 発信力でむすぶ

- ③ 拠点の機能

“いわゆるショップではなく、滋賀のショールーム”

i. 情報発信機能	iv. 案内機能
ii. 相談機能	v. 飲食機能
iii. 営業機能	vi. 販売機能

事業の目的

伝統野菜や地域特産野菜を中心に「近江の野菜」を振興するため、これらが培われた歴史や食文化などのストーリーを色濃く反映する「漬物」に焦点をあて、食材やその食文化が持つ魅力を県民とともに再確認し、関係者の活性化を図る。

事業の内容

1. 近江の野菜「漬物」大集合イベントの開催

県内各地の生産者や加工事業者、販売事業者、消費者が一堂に会した試食交流会を開催。

<内容>

- ◆地域で受け継がれる漬物の展示・ごはんと合わせた試食会
(歴史や食文化も含めた消費者への発信)
- ◆創作漬物コンクールの開催
- ◆つけ方、新しい食べ方講習会
- ◆生産者(団体)と加工事業者、販売事業者との交流会
など

2. 「近江の野菜」紹介パンフレットの作製

地域での食べ方や、新たな食べ方の紹介を含めた伝統野菜や地域特産野菜の食材紹介パンフレットを作製。



「漬物」を通じ、食文化、伝統的な食に関するストーリーとともに「近江の野菜」を振興！

1 現状および課題

- ① 一人当たりの年間米消費量は大幅に減少
(H15:61.9kg → H25:56.9kg)
- ② 米の過剰在庫による価格低迷を懸念する声
- ③ 米の消費に占める中食・外食などの割合は増加傾向 (H25:主食用米の約1/3が業務用)

2 目的および施策

【目的】 県民および幅広い関係機関・団体が一体となって、近江米の消費拡大に取り組むことにより、消費減退を食い止めるとともに、近江米の根強いファンを確保する。

- 【施策】
- ◆ 近江米の消費拡大に向けた県民運動を展開
 - ◆ 中食・外食における近江米の利用促進

3 事業内容 【実施主体:滋賀県米消費拡大推進連絡協議会】

県民・事業者等が一体となった「近江米」の消費拡大

「近江米」の消費拡大に県民が気軽に参加！

日々の食生活で県民が「近江米を食べている！」と感じる機会の増加

① 県民への啓発活動

- 【対象】 県民、県内の事業者・NPO等
【内容】
- ・県民運動キックオフイベント（シンポジウム）の開催
 - ・県民からの「近江米もっと食べます！」宣言の募集
 - ・参画団体等の取組計画発表

② 直売所等との連携



- 【対象】 県内の直売所・スーパー等
【内容】
- ・中食（おにぎり等）での近江米利用を促進
 - ・店頭PR

③ 飲食店等との連携



- 【対象】 県内の飲食店・事業者食堂等
【内容】
- ・「おいしがうれしが」キャンペーン推進店を中心に外食での近江米使用を促進

START

滋賀県米消費拡大推進連絡協議会

消費者
団体

近江米
振興協会

生産者
団体

流通
事業者

行政機関

関係機関・団体の
取組と連携

宣言した県民からの
取組状況報告

家で買うお米を
近江米に変えました！

近江米のおにぎり
を見つけて買って
います！

朝ごはん
必ず食べます！

近江米の消費減退を
STOP！

近江米の根強い
ファンになる！



**「滋賀ならではの」の特色を活かした、
魅力あふれる観光の創造
【重点テーマ5】**

キラリと輝く観光地「滋賀」へ!!!

滋賀県観光の
強みや弱み

豊富な観光資源（自然、文化財、合戦の地、等）

恵まれた立地（鉄道・道路アクセス、近畿・中部・北陸の結節点）

低い認知度

宿泊・滞在の少なさ

訪日観光客の増加

国体等の大型イベント

“ようこそ滋賀”へ
世界から、全国から
滋賀へ観光誘客を推進！

過去最高の観光入込客
4800万人を超え、
更なる高みを目指す

インバウンド2000万人
時代の海外誘客

ロケ地、音楽イベントなど、
あらゆる素材の活用

観光地「滋賀」の
認知度向上

「滋賀ならではの」の
ツーリズムの展開

国内外の来訪者を
「おもてなし」

観光ブランド「ビワイチ」
一湖国の宝に出会う旅

- ①ぐるっと回る（周遊）
- ②体験や体感ができる（体験）
- ③何かいいもの（特別・限定）



国際観光の推進

東京オリ・パラ等
を見据えて、海外
プロモーションや
受入体制を強化



官民が一体となった《大型観光
キャンペーン》の実施へ

「ロケ地日本一」の滋賀を活か
した映像誘致・ロケ支援

「ロケーションジャ
パン大賞2014グラ
ンプリ」の受賞で、
全国から滋賀のロケ
地に注目

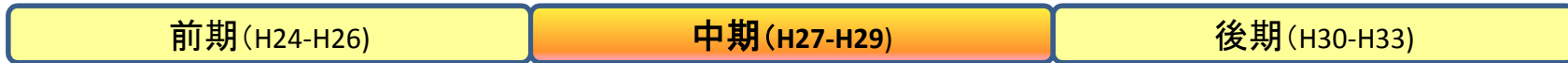
映像とタイアップしたロケツーリズムで滋
賀へ誘客



観光ブランド「ビワイチ」推進事業

観光振興による地域振興政策(地域づくりや地域経営の視点)

庁内他部局との連携/他のブランドとの連携



ビワイチ認定ツアー

- ・3条件(ぐるり・いいもの・体験)
- ・補助金支給《前期》
- ・ビワイチマテリアル使用を条件《中期》
- ・〃 を事業者が自主的に使用《後期》

STEP1 団体ツアーづくり

ビワイチマテリアル

連携WG

- ・4者共同(県市連携)
- ・地域の宝さがし
- ・特別、限定、本物、上質のコンテンツ

観光素材開発プロジェクト

- ・多様な主体の連携
- ・商品力ある素材
- ・地域が創る素材
- ・持続性ある運営

※ビワイチマテリアルとは滋賀の魅力を実際立たせることができる観光素材

STEP2 コンテンツづくり

広報PRの方針

STEP1
団体ツアーを使った告知(事業者、来訪者向け)

STEP2/STEP3
素材開発プロジェクトごとにPR戦略を策定(事業者、個人客向け)

(仮)ビワイチ巡り

- ・素材開発プロジェクトの着地系素材化《中期～》
- ・現地オプションツアー化《中期～》
- ・巡ることの価値提案(価値づくり)《後期～》
- ・周遊促進プロジェクト(個人来訪者対象)《後期～》

米原駅サイクルステーション検討事業費補助
(重点テーマ7・自転車プロジェクト推進事業費)

STEP3 周遊促進

観光地「滋賀」の認知度と評価の一体的な向上

滋賀・びわ湖ブランドへの貢献

**東京オリンピック・パラリンピックで
元気な滋賀づくり
【重点テーマ6】**

しがスポーツの魅力総合発信事業



オリンピック・パラリンピックは東京でやるから関係ないよね…

スポーツをしたいし、見たいし、する人のお手伝いをしたいけど…

滋賀って、スポーツ強かったっけ？あんまりそんな印象ないけど…

【現状・課題】

- ◆オリンピック・パラリンピックの開催効果を東京一極集中ではなく、本県にも積極的に取り込む必要がある。
- ◆現在は、県や市町、民間団体などがバラバラに情報発信しており、必要な情報がわかりにくい。
- ◆本県ゆかりのトップアスリートの活躍など、滋賀のスポーツの魅力や情報が効果的に発信できていない。

**東京オリンピック・パラリンピックで
滋賀を元気にするプロジェクト
「しがスポーツ大使」&事前合宿誘致**

**総合情報サイト
「しがスポーツナビ」
構築・運営**

**プロスポーツ等
観戦促進事業
「しがスポーツの子」**

**スポーツ振興の
ための組織体制
検討**

新 ◆本県ゆかりのトップアスリートやプロスポーツチームを「しがスポーツ大使」に任命。滋賀の多様な魅力を広く発信。
◆大使が地域の運動会や子ども体験教室等で県民と直接交流する機会の創出支援。

◆競技団体や市町と連携し、東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿等の誘致活動を展開(国内)。
※海外での誘致活動を展開(26年度補正予算)

新 ◆コンテンツ ◆
○スポーツ大使紹介
○競技紹介
○イベント情報
○施設検索
○指導者情報
○ボランティア情報
○事前合宿情報 等

新 ◆子どもたちがトップレベルのスポーツを生で観戦し、将来への夢や希望を育む機会を提供。
◆県内開催のホームゲームに小中学生の団体を招待する場合に、入場料減免額の一部を補助。

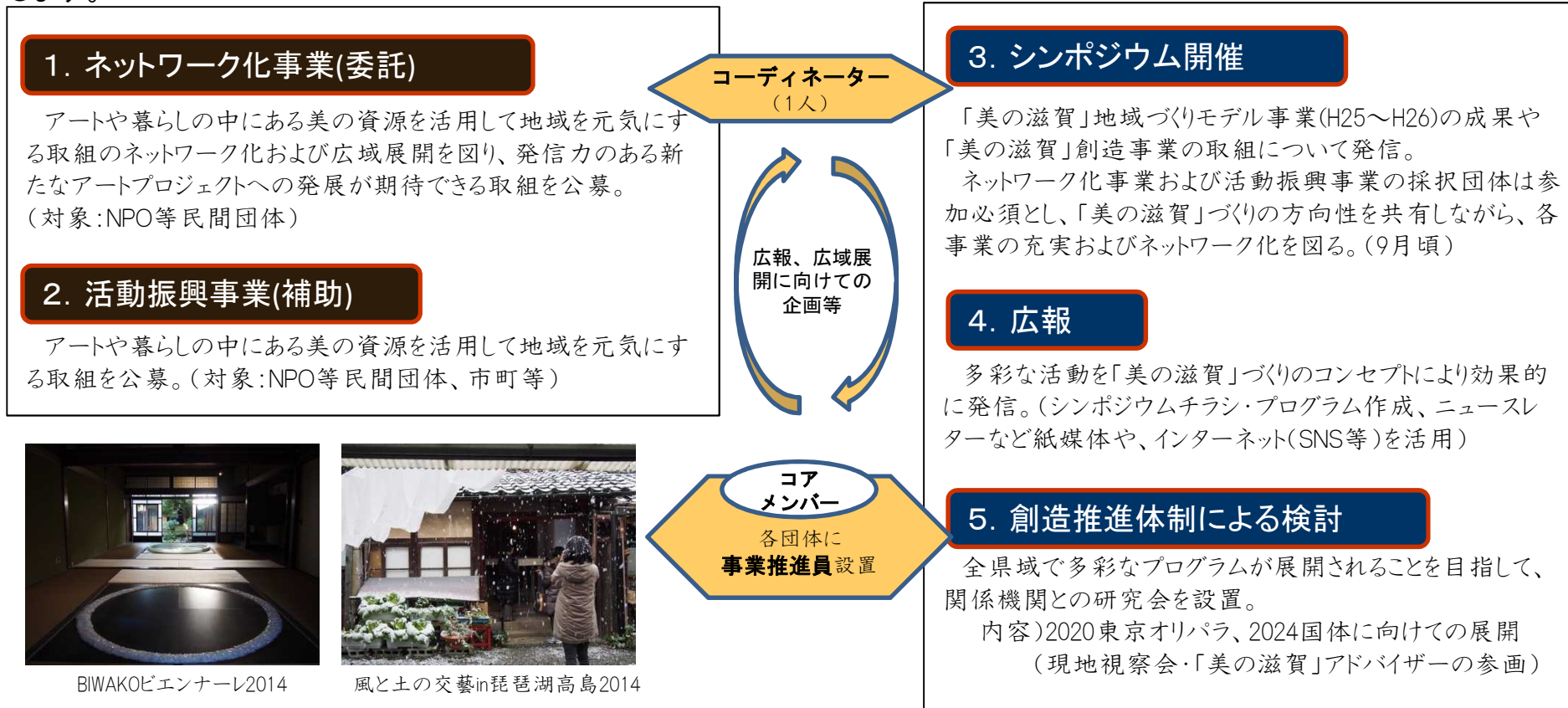
新 ◆県内の団体・企業等が連携して取り組む組織体制を検討
◆スポーツを観光資源としたツーリズムで地域を活性化する組織「地域スポーツ・コミッション」も視野に入れて検討。

**地域を元気にする文化振興と
「美の滋賀」づくり
【重点テーマ6】**

地域の元気創造・暮らしアート事業 (「美の滋賀」創造事業)

新

NPOなど多様な主体が実施する、アートや暮らしの中にある美の資源を活用して地域を元気にする取組を支援し、ネットワーク化および広域展開を促進することで、多彩な文化プログラムの展開および発信力のある新たなアートプロジェクトへの発展を目指します。



**東京オリンピック・パラリンピックに向けて、多彩な文化プログラムの展開
新たなアートプロジェクトへの発展・元気で創造的な地域づくり**

新生美術館の整備

新生美術館整備事業

施設整備

①基本設計・実施設計

新館建築、既存館改修、公園改修の設計を一体的に実施
(H28年度までの合計180,000千円)

②地盤調査

新館建築予定地の地盤状況を調査

③整備推進アドバイザー会議

④整備検討調整業務

美術館機能向上

①交通アクセス向上プロジェクト

来館者の増加に対応した、交通アクセス向上策の検討

②作品収集・制作

滋賀にゆかりの作家やアール・ブリュット作品の収集、恒久展示作品制作調査

③情報システム整備

作品や資料の情報をデータベース化、外部に提供するためのシステム構築検討

琵琶湖文化館機能移転

①作品移転に向けた調査・修復 (文化財保護課)



みんなで創る
美術館の実現!



新

みんなで創る美術館プロジェクト事業

地域・県民との連携・情報共有

①全県推進体制

みんなで創る美術館プロジェクト推進会議、連携推進懇話会の設置

②整備情報発信・アーカイブ化

整備の方向性や情報をお知らせするフォーラム開催、リーフレット制作と、整備過程のアーカイブ化

①設計業務における参画の推進

設計業務の実施にあたり、ワークショップ等により県民の参画をすすめる

「美の滋賀」拠点づくり

①「美の滋賀」拠点形成フェア

「美の滋賀」の魅力を五感で楽しめるフェアを近代美術館および周辺公園内で開催

②「美の滋賀」の拠点をめざす展覧会 (近代美術館)

近代美術館で「志村ふくみ」と「アール・ブリュット」の企画展を、地域の施設や団体との連携により開催

地域とつながる美術館

①美術館地域連携プログラム (近代美術館)

県内各地の施設・団体等と連携し、ワークショップやトークを実施

②アートバス運行モデル事業

美術館と県内各地を結び、アートツーリズムのモデル提案にもつながるバスを運行

平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30～31年度 (2018～19年度)
(設計者決定)	工事設計		新館建築・公園改修工事	既存館改修工事
			(休館)	
		作品収集・恒久展示作品制作		

「美の滋賀」の魅力に出会い楽しめる美術館
をめざし、平成31年度までにオープン!



新

「戦国の近江」魅力発信事業

事業の目的
滋賀県には城跡や古戦場などの戦国時代の遺跡が数多く存在する。これらは滋賀県の歴史・文化を物語る貴重な歴史資産である。そこで、滋賀県に残る戦国時代の遺跡についてその価値を明らかにし、広く全国に向けてその魅力を発信する。



彦根城

現状 探訪参加者の固定化・外国人来訪者少数
 近江戦国探訪 (知恵だし汗かき0予算事業)
 H23~H25 全13回 参加人数のべ1,026人
 連続講座「近江の城郭」
 (知恵だし汗かき0予算事業)
 H23~H25 全16回 参加人数のべ1,461人
 安土来訪外国人観光客
 H25 日帰り来訪者数 のべ465人

課題
 ・新しい探訪ルートの開拓
 ・新たな参加者の増
 ・全国の戦国ファンへのアピール
 ・外国人への情報発信と国際的評価



安土城

「戦国の近江」魅力発信事業

事業の効果
 ・全国の戦国ファンを滋賀県に!
 ・外国人来訪者の増加
 ・海外知名度の向上



事業の内容
 ①県内の遺跡探訪と組み合わせた連続講座やシンポジウムの開催
 ②東京で安土城・彦根城、甲賀武士と忍者の 講座を開催
 ③安土城・彦根城・忍者のルーツ甲賀の城の英語版解説資料のネット発信
 ④テレビ番組で城跡・古戦場跡・忍者のルーツ甲賀郡中惣の放映、DVD化

滋賀の戦
 略的県外
 PR事業
 により、
 全国へ発
 信!

**県民が元気になるスポーツ振興と
県民総参加による
国体・全国障害者スポーツ大会の開催
【重点テーマ6】**

『2024年 第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会』 に向けた主な取組

2013 (11年前)	2014 (10年前)	2015 (9年前)	2016 (8年前)	2017 (7年前)	2018 (6年前)	2019 (5年前)	2020 (4年前)	2021 (3年前)	2022 (2年前)	2023 (1年前)	2024
内々定						内定		決定		リハ大会	開催
							東京 オリ・ハラ	関西ワールド* マスターズゲームズ*			

大会開催準備

県、市町、県内の主要な機関・団体等で構成する「開催準備委員会」を中心に、大会開催に必要な準備を進める。

- ◆主会場以外の各競技会場の選定およびそのために必要な基礎調査
- ◆小学生から大学生世代による国体やスポーツ等についての調査・提言
- ◆募金活動の推進 ◆競技役員等の養成 ◆広報活動の推進 など

スポーツボランティア支援 **新**

スポーツボランティアを養成するとともに、ボランティアネットワークを構築する。

競技力向上 **新**

「競技力向上基本計画」に基づき、県や市町、県体協その他の団体で構成する「競技力向上対策本部」の下、国体総合優勝に向けた「準備期」として、競技力の向上を図る。

- ◆『選手の育成・強化』・・・ ジュニア選手の発掘・育成、オリンピック・パラリンピック選手の輩出・中高体育連盟への支援など
- ◆『指導体制の充実』・・・ 県内外のトップコーチの実技指導等による指導者養成や、教員特別選考等による指導者の確保など
- ◆『拠点構築・環境整備』・・・ 戦略的な強化拠点の指定など

主会場整備

大会の主会場(開・閉会式場、陸上競技会場)となる現在の彦根総合運動場の一部について、県営都市公園:(仮称)彦根総合運動公園として整備を図る。

- ◆公園基本構想・基本計画に基づき、公園整備の基本設計に着手
- ◆地形図等の作成のための用地測量、用地買収に伴う補償調査、周辺環境への影響を予測する生活環境調査などを実施

項目	2014 (10年前)	2015 (9年前)	2016 (8年前)	2017 (7年前)	2018 (6年前)	2019 (5年前)	2020 (4年前)	2021 (3年前)	2022 (2年前)	2023 (1年前)	2024 (開催)
都市公園 計画・設計		基本構想・基本計画→ 基本設計→実施設計									
既存施設解体・ 基盤工事等				既存施設解体、基盤工事、その他公園施設工事						供用開始	リハ大会 本大会
新 陸上競技場等 の施設整備			施設設計			建築工事					

障害者スポーツ振興 **新**

福祉、教育、スポーツ等の関係者と連携しながら、障害者スポーツの振興の体制づくりやノウハウ作成に関する実践研究を行う。

- ◆地域における障害者のスポーツ参加促進に関する実践研究
- ◆全国障害者スポーツ大会選手養成および大会派遣事業 など

視点3

大規模災害などへの備え

**交通ネットワークの充実と
社会インフラの戦略的維持管理
【重点テーマ7】**

物流・人流促進&災害に強い道路ネットワークの整備推進

将来20年間における道路整備の基本方針

滋賀県道路整備マスタープラン

『4つの政策目標』

① 県内産業の
活性化と
地域文化の交流

② 誰もが安心・安全に
暮らせる優しい
県土の実現

③ 環境負荷の軽減と
個性と潤いのある
生活空間の創造

④ 地域の自立的発展と
不安のない
暮らしの創出

将来10年間の道路整備計画

厳しい財政状況の中、「**選択と集中**」による**重点化**を図り、地域に真に必要な道路を優先して整備

滋賀県道路整備 アクションプログラム

高速道路へのアクセス強化、物流拠点間のネットワークの強化

湖国のみち開通目標

【事業中】H28供用目標
(仮称)小谷城スマートIC

【H25.10供用開始】
湖東三山スマートIC

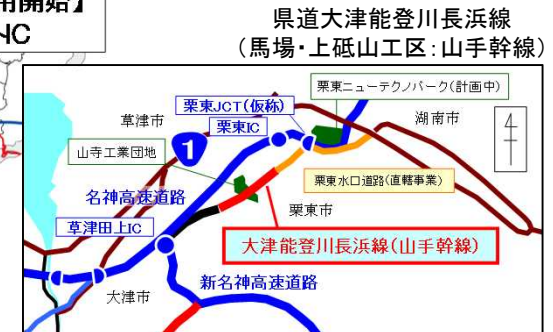
【H25.12供用開始】
蒲生スマートIC

【事業中】H35本線同時供用目標
新名神大津スマートIC(仮称)

予算額:
11,719,467千円



県道丁野虎姫長浜線
(山脇工区:(仮)小谷城スマートIC)



■ 高速道路の利用促進に効果のある新たなスマートICの設置推進を図る

- 県内産業における既存施設の付加価値向上
- 地域間交流の促進

湖西線利便性向上対策事業

湖西線の現状

○湖西線乗車人数 **1日当たり49,933人**
 定期利用が71.8% 定期外利用28.2%

湖西線沿線人口
 (約20万人)の
25%が利用

○運転本数

山科駅～堅田駅間 143本
 堅田駅～近江舞子間 134本
 近江舞子駅～近江今津駅間 70本
 近江今津駅～永原駅間 44本
 永原駅～近江塩津駅 35本

※参考 区間別乗車人数

区間	乗車人数
大津京～堅田間	32,357
小野～北小松間	10,784
近江高島～永原	6,792
計	49,933

近江舞子以北のダイヤ増便を要望中

○強風による運行遅延が多い

防風柵設置等の対策を要望中

○バリアフリー対策が必要

全線高架駅のため、対策が必要

【湖西線】19駅
 ○バリアフリー整備率
 52.6%
 (19駅中10駅が整備済)

【県内JR線全体】58駅
 ○バリアフリー整備率
 65.5%
 (58駅中38駅が整備済)



*H25年度乗車人数

「湖西線利便性向上プロジェクトチーム」

が取り組む事業に対して必要な支援を行う。

・利便性向上

強風対策

防風柵設置 *JR西日本へ要請
 H26.9.17 比良駅～志賀駅間の延伸設置決定

比良おろし予測システム研究
 *京都大学生存圏研究所と連携事業

バリアフリー
 化の促進

未整備駅に対する整備促進
 バリアフリー化に係る市の負担経費増分の
 1/2嵩上げ補助(沿線市の要望事項)

駅への交通
 アクセス向上

交通不便地でのバス・タクシーのデマ
 ンド交通への運行支援等、地域交通の充実
 化に向けた取り組み実施

ダイヤ改善

JR西日本への要請を行うとともに、
 利用者増に向けた利用促進策を取組む

・利用促進

地元利用促進

エコ交通への取組
 エコ通勤優良事業所認定の取得
 湖西線サポーター企業(事業所)連合の結成

観光誘客

湖西線沿線3市と沿線観光協会・観光
 施設等との広域連携による*JRとも連携
 「湖西線広域観光キャンペーン」への支援
 湖西線広域観光キャンペーン事業費補助金

「はるか」を
 湖西線に!

より便利で利用しやすい湖西線に

湖西線利用者・湖西線ファンを増やす

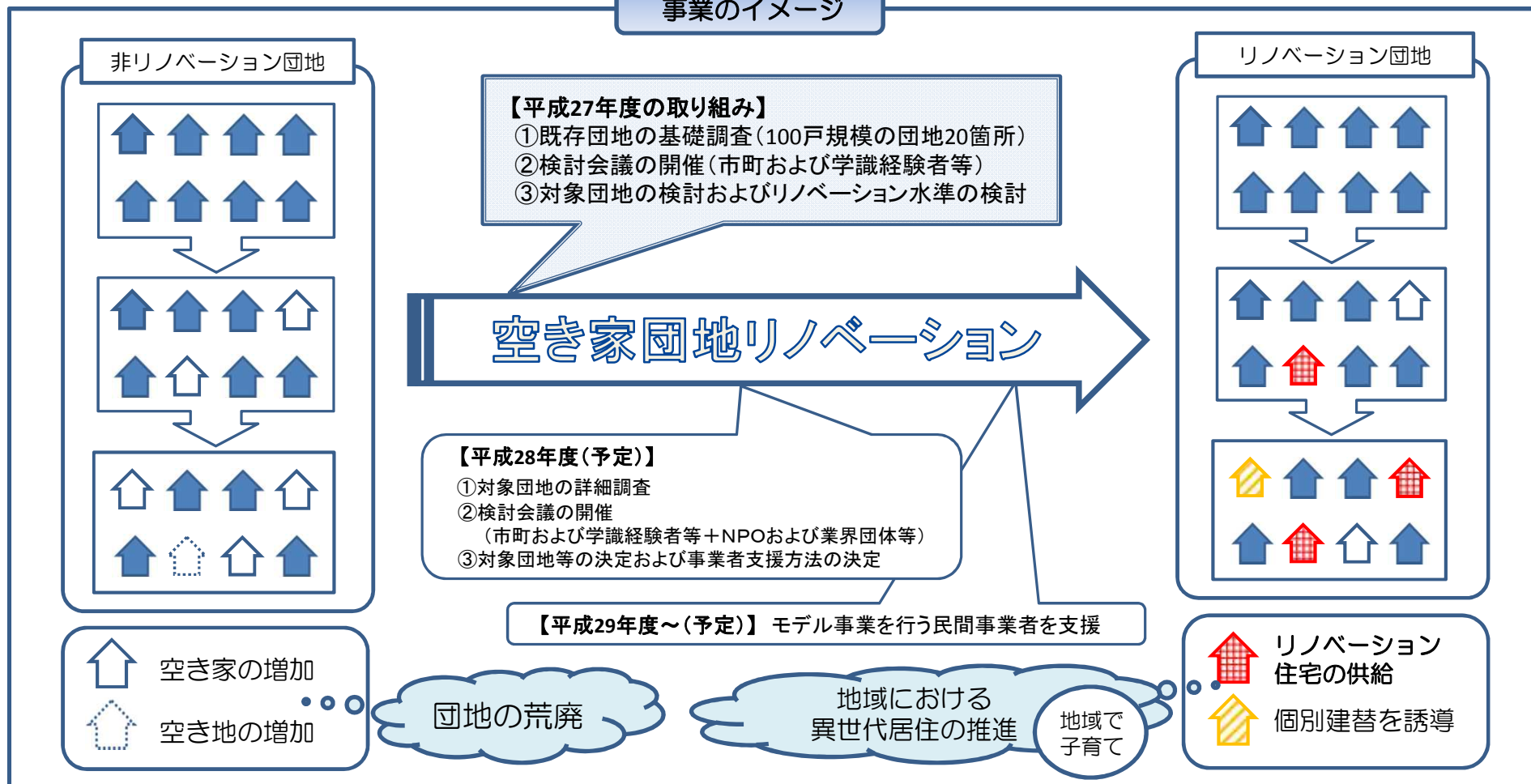
事業の背景

高度成長期に住宅供給公社等が開発した優良な住宅団地においても、今後の人口減少を見据えると、空き家の増加や高齢化の進行により、団地の荒廃が進む恐れがある。

事業の目的

公共インフラが計画的に整備された住宅団地を重要な社会インフラとして捉え、団地内にある空き家を子育て世帯向けにリノベーションする民間事業者を支援することにより、「空き家対策」と「子育て支援」さらに「社会インフラの戦略的維持管理」に取り組むものである。

事業のイメージ



**災害に強い県土づくりと
自助・共助による地域防災力の向上
【重点テーマ7】**

流域治水政策の推進 ～「ながす」対策（河川改修事業）～



天井川の河川改修や堤防強化等をはじめとした、洪水を安全に「ながす」対策を推進します。

予算額：
6,871,333千円

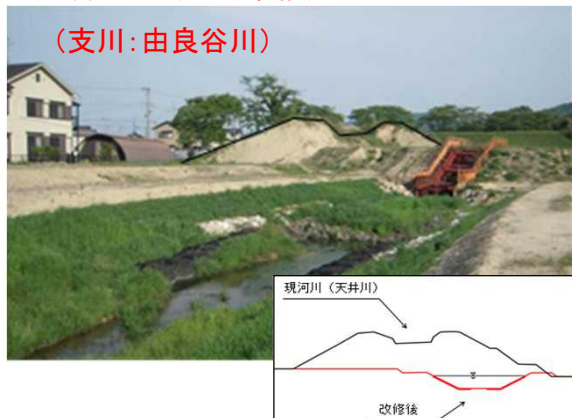
流域治水政策の概要 地先の安全度



日野川広域河川改修事業
(大規模河川の切下げ改修)



家棟川広域河川改修事業
(天井川の切下げ改修)



大戸川単独河川改良事業
(河道拡幅のための新堤築造中)



安曇川単独河川改良事業
(堤防強化:高水護岸・遮水シート工)



新 土砂災害に備えるための住民理解促進事業

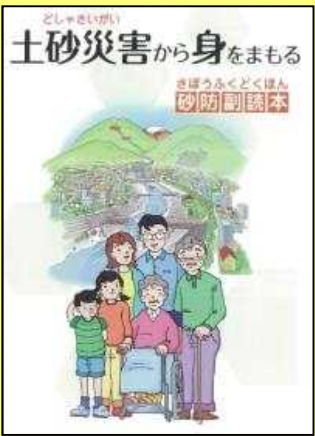
(土砂災害対策の充実)

土砂災害から命を守るために

- 地域の危険箇所やリスクを知っていただく。
- 避難の重要性を理解し、いざという時に備えていただく。



住民理解の促進



砂防副読本



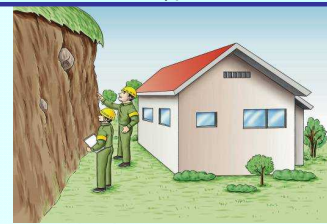
砂防出前講座等で副読本活用

◆土砂災害危険箇所や避難の重要性について、砂防副読本などを活用し、住民の理解促進を図り、基礎調査や土砂災害警戒区域の指定を円滑に進める。

理解促進

土砂災害防止法に基づく基礎調査・土砂災害警戒区域の指定

基礎調査実施



◆基礎調査実施
調査結果の公表

公表

住民説明



◆土砂災害警戒区域等の
指定推進

区域指定

避難体制整備



◆指定区域内
の避難体制の整備

危機管理センター整備事業

地震等の自然災害をはじめ、テロや新型インフルエンザなど、様々な危機事案に対し、迅速・的確に対応するとともに、自助・共助による地域防災力の向上を図るため、危機管理機能の拠点となる滋賀県危機管理センターを整備します。

平成27年度は、昨年度に引き続き、防災行政無線や防災情報システムの整備を行います。あわせて、防災ヘリコプターのデジタル改修や受信設備の整備、センター備蓄倉庫の整備や物品の調達等を行い、センターの供用を開始します。



- ### 平成27年度の事業
- ◇ 防災行政無線……機器設置工事
 - ◇ 防災ヘリコプター……デジタル改修
 - ◇ 防災情報システム……ソフト開発・設置工事
 - ◇ 備蓄倉庫・供用開始関係物品等の調達

滋賀県危機管理センター
総合的な危機管理拠点

- ① 災害対策本部機能
- ② 防災情報収集機能
- ③ 研修・交流機能

【危機管理センターの概要】

- 建物規模は、地上5階、延べ床面積約5,460㎡
- 建物は、防災拠点に求められる耐震安全性能を確保(免震構造)
- 災害対策本部機能として必要な室を配置
(災害対策本部室、オペレーションルーム、災害対策室、プレスセンター、無線統制室など)
- ライフライン断絶時にも対応(自家発電機、貯水槽、防災井戸、汚泥貯水槽、備蓄倉庫など)
- 平常時は、地域防災力向上のための研修・交流や展示の場として活用(主に1階)
 - 交流スペース: 県民が情報交換し、顔の見える関係づくりができる場
 - 研修スペース: 県民や団体、行政機関等が危機対応力を高める研修の場
 - 展示スペース: 「生活防災」に役立つ取組や情報を展示物やパネルで紹介する場

**犯罪の起きにくい社会づくりと
事故のない交通環境の構築
【重点テーマ7】**

性犯罪被害者への支援強化(公費負担の充実)

SATOCO(サトコ)
H26.4月～
【性暴力被害者への
24時間ワンストップ支援】

性暴力被害者

産婦人科診療
費用・カウンセ
リング等費用負
担
犯罪捜査活動



24時間
ホットライン

心のケア
(警察・裁判・弁
護士相談など)
付き添いサ
ポート
電話や面接
での相談

医療機関
(滋賀県産科婦人科医会)

看護師・
産婦人科医師

捜査機関
(滋賀県警察)
女性警察官等

県による
総合支援

相談機関
(おうみ犯罪被害者
支援センター)
女性相談員・支援等

◆性犯罪被害者への公費負担拡大 ◆SATOCOの運用支援

- (1)初診料
- (2) 初回処置料
 - ・膣分泌検査等
 - ・超音波検査
 - ・緊急避妊措置料
 - ・人工妊娠中絶費

- (1) 初診料
 - (2) 検査等費用
 - ・膣洗浄
 - ・超音波検査
 - ・性感染症検査等
 - (3) 再診料
 - (4) 緊急避妊措置料
 - (5) 人工妊娠中絶費
- ※下線が拡大部分

夜間・休日の診療を見据えた初診料の増額

性感染症検査の拡充

再診を要する検査も支援対象へ

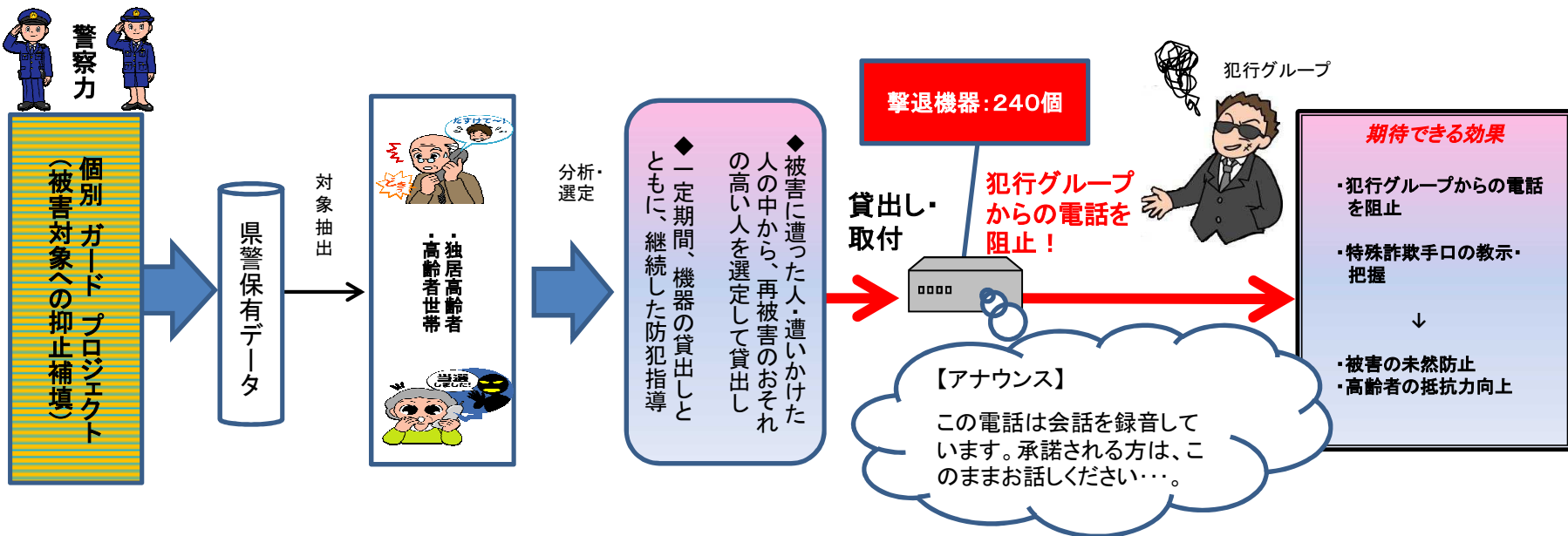
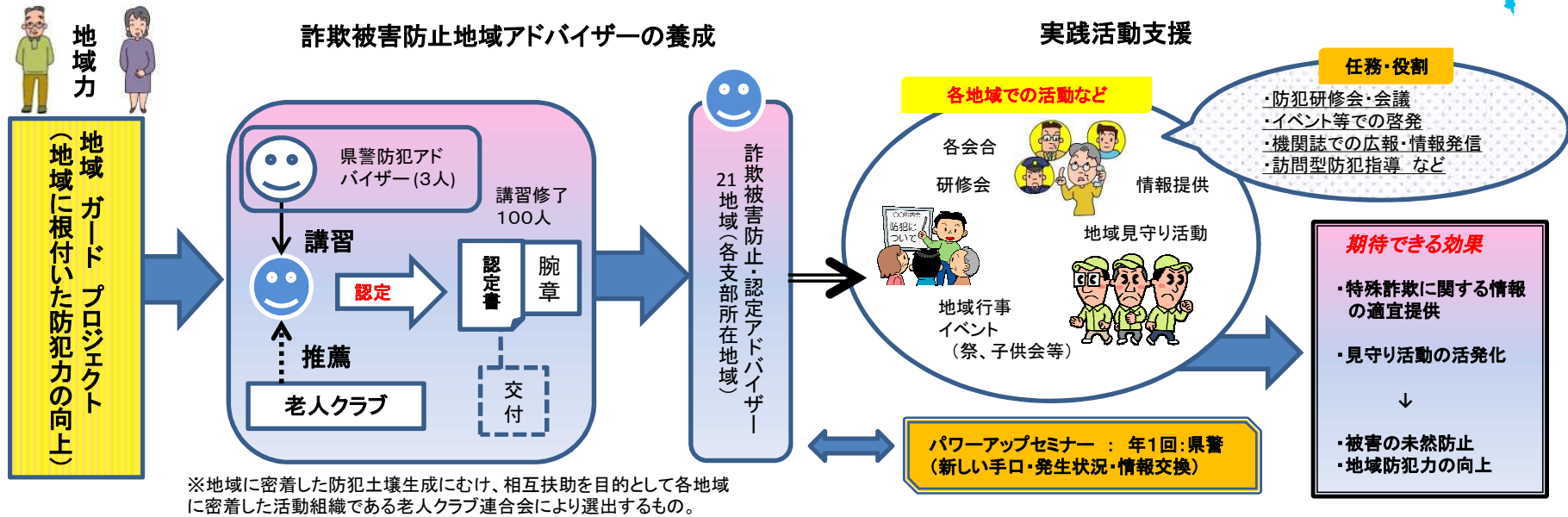


安全・安心な
地域社会の構築

強姦・強制わいせつ認知件数

年	H25 12月末	H26 12月末
強姦	8	12
強制わいせつ	120	79
計	128	91

高齢者を振り込め詐欺から守るシルバーガード推進事業



マザーレイク滋賀応援寄附を活用した事業



琵琶湖を愛する方や滋賀の歴史・文化に魅力を感じる方、そして、滋賀県を「ふるさと」と思う全国の滋賀ファンの皆さまからの応援（寄附）を財源として、平成27年度は**25,721千円**の事業を実施します。

琵琶湖に関する事業

琵琶湖の
総合保全

○外来生物防除対策事業(7,400千円)

「オオバナミズキンバイ」や「ナガエツルノゲイトウ」等の外来生物についての普及啓発を行うとともに、県民やNPO法人、市町などの多様な主体による外来種の監視と駆除活動を支援し外来種の拡大を阻止するとともに、新たな侵入種の早期防除を図る。

○豊かな生きものを育む水田づくり推進事業(2,800千円)

「魚のゆりかご水田」を含む「豊かな生きものを育む水田」の普及・啓発と活動組織間のネットワークの構築を図る。

琵琶湖における
環境学習・体験学習

○琵琶湖固有種ワタカで学ぶ南湖再生事業(3,800千円)

水草を食べるワタカを南湖に放流し、漁場の改善を図るとともに、県民参加型の環境学習と放流体験事業を行う。

琵琶湖に対する
総合的な理解を
深める

○「びわ湖の日」活動推進事業(200千円)

「びわ湖の日」啓発ポスターを作成し、琵琶湖の価値や、「びわ湖の日」の持つ意義を県内外に広めることで、環境保全に関する活動への参加意欲の増進や琵琶湖ブランドの価値向上につなげる。

○新琵琶湖博物館「(新)サテライトミュージアム」(3,565千円)

県外に向けて「新琵琶湖博物館創造」の理念と魅力を発信し、その浸透を図るために「サテライトミュージアム」を開設し、琵琶湖への理解と関心を高める。

○県民参加型展示(仮称)「私の琵琶湖自慢」(1,027千円)

【お気に入りの琵琶湖の風景写真】を県民から広く募集し、写真展を行う。展示に必要なコンテンツを県民から収集することで、県民参加型での琵琶湖博物館のリニューアルを目指す。

歴史的文化的資産に関する事業

歴史的文化的
資産を保存する

○「受け継がれゆく いにしえの美」琵琶湖文化館所蔵品再生展示事業(6,929千円)

琵琶湖文化館が所蔵されている県所有の貴重な文化財のうち、損傷が著しい作品を修理再生し、県内の美術館等で一般に展示公開する。

「滋賀県基本構想」の着実な推進を図るために…

滋賀県行政経営方針

～対話と共感、協働で築く県民主役の県政の実現～

平成27～30年度
までの4年間

「滋賀県基本構想」の着実な推進を行財政面で下支えするため、次の3つの経営的な視点のもとで県の経営資源に一層磨きをかけ、県庁力の最大化を図るとともに、様々な行政課題を県民の皆さんと共有し、「対話」を基本に、「共感」を生み出し、「協働」へとつながる行政経営を進めます。

(行政経営の基本的な視点)

「攻め」
の視点

高いコスト意識、無駄の排除、
選択と集中の徹底
結果を重視した次につながる
行政経営

「見える」
の視点

県政の課題や方向性、施策
や予算の状況をわかりやすく
タイムリーに発信

「前向き」
の視点

チャレンジ精神や創意工夫の発揮
スピード感、グローバルな視点

対話と共感、協働で築く県民主役の県政を実現します

1. 主な対話（広聴）事業

- 県民と知事との直接対話事業「こんにちは！三日月です」
先進的な取組、特色ある活動を行う団体等に知事が訪問して対話を実施
- 県民と知事との県政テレビ対話事業
県政の重要課題を県民と知事が対話する模様をテレビで生放送、視聴者からの意見も紹介
- 知事への手紙（インターネット、手紙、FAXで受け付け）
- 県政世論調査（県内在住の満20歳以上の男女3,000人を対象）
- 県政モニター（400人、県内在住の満18歳以上の方を公募）

2. 一緒にやりましょうプロジェクト 詳細は資料2-2へ

特別な事業予算を伴うことなく、職員一人ひとりの創意工夫、あるいは県民等との対話と共感、協働の実践等により、政策課題の解決や県民サービスの向上を目指す事業を「一緒にやりましょうプロジェクト」と位置付け実施。

取組の内訳

1：県民等との協働・連携	35事業	5：各種行政情報の提供	14事業
2：市町との連携・支援	7事業	6：行政資源の有効活用	1事業
3：県民向け行政サービスの拡大	40事業	7：それ以外のもの	5事業
4：県有施設等の維持管理	2事業	合計	104事業